

吉備真備と閑谷学校についてのレポート

Reports on Kibinomakibi and Shizutani School

(1995年3月31日受理)

大津寄 勝 典
Katsusuke Otsuki

Key words： 吉備真備、閑谷学校、教育史

1 き び の ま き び 吉 備 真 備

吉備真備（きびのまきび）は、吉備出身の父の勤務の関係で、持統天皇8年^①（694）に大和に生れた。出生名は、下道朝臣圀松（しもつみちあそんくにまつ）で、幼名は、下道朝臣真吉備（しもつみちあそんまきび）であった。中国留学中に、唐風の二字として真備と改名し、天平18年（746）には賜姓されて、吉備朝臣真備（きびあそんまきび）となった。従二位右大臣を最高位とし、宝龜6年（775）に、81歳で死去した。長命であった。

岡山県南地方にある吉備路には、今日も大きな古墳が残されている。その中でも吉備一族の祖先を祀っているとされる造山古墳は、長径350m、前方後円墳で、仁徳陵、応神陵、履中陵について全国第4位の規模である。またその近くの作山古墳も、神功皇后陵について第12位の大きさと、吉備一族の古代の勢力を推し量ることができる。

応神天皇（270—313年）の行幸があったとき、吉備地方でそれを歓迎した御友別（みともわけ）が吉備一族の祖とされている。その長男である稲速別（いなはやわけ）が下道臣を名のった。下って下道太宰は、唐の則天武后がつくった則天文字^②の一つである「圀」（くに）を使って、長男を圀勝、次男を圀依と名づけたが、孫にも出生名を圀松としたのであった。この圀松が真備である。

真備は、靈龜3年（717）、神紙を蓋山（みかさやま）に祠って拜朝^③（みかどをがみ）し、唐に出発した。それは第8次遣唐使であったが、一行557人で、真備はその中の留学生の1人であった。遣唐使がその使命を終えて帰国したあとも、真備は、そのまま更に17年間唐にとどまり、その間、趙玄默に師事して学業全般を習得した。受けた給費の殆んどを唐の文物や書物の購入にあて、留学が

終って帰国したとき、真備はこれらの文物や書物を献上した⁹。

帰国した真備は、大学助として教育者の道を歩むこととなる。真備の学徳は宮中でも認められ、天皇、皇后、右大臣からの信認も厚くなり、地方豪族の出身者としては最高の地位である外従五位下に叙せられ、のち更に昇進した。天平13年（741）には東宮学士を拜命し、皇太子内親王（のちの孝謙・称徳天皇）の教育係となったが、真備はその博識をもって、よくご進講のつとめを果たしたのであった。

このような真備に対し快く思わないのが藤原広嗣であった。広嗣は藤原不比等の子である宇合の子であり、大宰少弐（だざいのしょうに）となったが、真備の昇進を妬み、自らの左遷にも不満をもち、真備や玄昉を除くことを名目として、九州の太宰府管内に兵1万人を動員し事をかまえるにいたった。この藤原広嗣の乱に対し、真備は微動だにせず、自らの言動に留意して対処した。ついで門閥政治を強化した藤原仲麻呂により、今度は真備が筑前守や肥後守に左遷されたが、そのような境遇になっても、与えられた任地であってよく職務に精励した。その仲麻呂（恵美押勝）が反乱したとき、真備は孝謙上皇の側に立って鮮やかな作戦用兵を行い、僅か17日の戦いで、この乱を鎮めた⁹。そして自らは、対新羅辺境防衛に力をつくし、軍事操典を整備するなどの業績をあげた。兵法家としても真備の面目躍如たるものがある。

天平勝宝2年（750）、真備は地位、年齢が上であるにもかかわらず、主要使節藤原清河の副使として唐に渡った。第10次遣唐使である。この遣唐使の役目の一つに、東大寺大仏開眼供養として僧尼授戒の儀整備のため、傑僧鑑真の来日を招聘することがあった。当時日中間の航行は多難で、眼の不自由な鑑真に対しては、当局から中々訪日の許可が下りなかった。そこで真備は事柄の重要性から、鑑真来日の労をとることとなる。真備は鑑真の意向を確かめたところ「拙僧の初心は不変」ということであつたので、当局に交渉して遂に来日を実現させた。これは遣唐使の功とされて、真備は正4位下を賜わったのである。

道鏡問題でも真備は活躍した。道鏡は不思議なまじないの力をもって孝謙天皇の病を癒し、女帝に近づき、衣をまとった政僧として法王の地位を強めた。道鏡は更に宇佐八幡の「つくり託宣」をもって天皇の地位を求めた。このとき従二位右大臣であった真備は一計を案じ、もう一度その託宣を確かめる可きとした。この真備の作戦にもとずき、自ら正確な託宣をきき出した和気清麻呂の努力により、道鏡の野望はくじかれたが、この際の真備の細心の策が効を奏した点を見逃せないのである。

以上述べた業績を通じて、真備の人物像が浮かんでくる。真備には冷い眼をした異国的な風貌の持主という見方⁹もある。政界にあっても、とにかく大和の伝統的な貴族連中のやり方とは一寸異なっていた⁹。個人的な野心を一切持たず、無欲であつて、当時の宮廷政治の暗斗からはつねに距離を置いていた。

一留学生から立身した真備であったが、多くの留学生や僧のうち、阿部仲麻呂とともに唐によくその名を知られた人であった。ついには右大臣にまで昇進したが、学者で右大臣に就任した者は王朝時代を通じて、この真備と菅原道真の二人だけであった。真備は和気清麻呂とともに、古代の吉備地方の生んだ大人物であった^⑧。

真備は左遷されても怨まず、右大臣に挙げられても驕らず、権勢、富貴を求めなかった。一貫して孝謙天皇に忠誠をつくし、与えられた職務に忠実に勤めて精励し、深く学問と教養を積んだ。まさに奈良時代の政治に清風を送った人物であり、日本の文化史上にも偉大な足跡を残したのであった^⑨。

吉備国は670年代に備前・備中・備後の3国に分けられ、またその後、美作の分割をみた。今日でも吉備郡や吉備寺があるが、吉備真備に関わる名称が多い。真備町（まびちょう）、町立真備中学校（まきびちゅうがく）、真備高等学校（しんび）にまきび会館等。自ずと関心は吉備真備に寄せられていくのである。

2 しづたに がっこう 閑谷学校

わが国では、明治維新以後、文教当局の方針のもとに、全国的な学校教育が制度化された。それに先き立つ江戸期には、藩校、私塾などの形をとって教育がなされていた。それは士族に対してだけでなく、人口の90パーセントを占めた庶民に対しても、いろいろな方法での教育があった。

それは生れた「家庭」での教育、生徒を意味する寺子に対する手習い、また読み書きの「寺子屋」、10歳すぎの「奉公」「女中奉公」から「若者制度」「子供組」など各面にわたった。これらの庶民教育は、日本の明治維新以降の近代化への基礎をなすものとして無視できないものがある。

更に、以上のほかに庶民教育の学校として設けられたものに「郷学」があった。郷学の場合、藩主が設立者となったり、あるいはそれを公認するもので、別人の教師がそこにやって来て庶民を教育したのであった。教場も公共の施設を設けたので、寺子屋とは異なっていた。

有名な郷学としてあげられるものは、大坂・平野の「含翠堂」、江戸の「会輔堂」大坂の「懐徳堂」などがある。そしてここでとり上げる岡山池田藩主による「閑谷饗」（しづたにこう、以下閑谷学校とのべる）もそうである。これら郷学は17世紀から18世紀初めにかけて、設立された。

庶民のための郷学は、明治初年には全国でその数416に達していた^⑩。これらは主に庶民である児童を対象とした初等教育機関であったが、成人を相手にしたものに「教諭所」があった。また等しく郷学と称されながら、上述した庶民教育とは異なり、武士用の「小さな藩校」もあった。

ここでは郷学そのものとして岡山県備前市にある「閑谷学校」をケースとしてとり上げ、その現

代的意義を考えてみたい^⑧。閑谷学校の建物は約300年前に設立されたが、その多くが現存している。

岡山藩主池田光政による閑谷学校の設立とその後の歩み^⑨は大要つぎである。

寛文6年（1666）池田光政は学校用地を検分した。

延宝元年（1673）講堂が完成した。この講堂は現存している。

元禄14年（1701）聖像（孔子像）が設けられた。

明治3年（1870）閑谷学校は廃止された。以降再開、閉校、再興がつづいた。

明治36年（1903）私立閑谷中学校として認可された。

大正10年（1921）県立中学に移管した。

昭和23年（1948）学制改革により岡山県立閑谷高等学校となった。

昭和40年（1965）岡山県立和気閑谷高等学校となり、和気校舎へ移る。岡山県青少年教育センター閑谷学校が併置された。今日の姿である。

明治以降このように変転をくり返して来た閑谷学校であるが、連綿として学灯を守りつづけている。世界でも最も古い庶民のための学校であると言えるであろう。仁義礼智信をわきまえた人づくりを求めた池田光政の革新的な教育理念が生きつづいたと言える。

閑谷学校の現代的意義を求めて、以下に5点を述べる。

第1点は、特別史跡閑谷学校が、国宝、重要文化財として現存していることである。その中でも国宝の講堂は江戸時代建造物の華である。また孔子の聖廟、池田光政を祭る閑谷神社社殿、学校石塀など重要文化財の多くも現存している。これら国宝・重文は、防火丘陵（火除山と称する）によって具合よく火気が断たれ、この丘陵があったため、隣の学寮から出火した際も、火事による国宝への類焼を遮断することができた。建物を防災から守ろうとする知恵が、よくこの建造物を今日まで存立させたのであり、領民教育の執念をいつまでも知ることができる。

第2点は、日本における儒学教育センターの一つであることである。学生たちは、四書・五経をこの講堂で学び、孔子像を拝んだ。このことは表面的だけではあるが、今日の閑谷学校を見学するものにとって同様である。往時を偲ぶよすがともなっている。

また孔子聖像の前方左右の斜面に植えられた一対の楷^{かい}の木は立派である。中国山東省曲阜という孔子ゆかりの地から種をもって来て東京・湯島聖堂、足利学校などに植えたものであるが、閑谷学校の場合大樹に育った。一見に値する。

第3点は、明治維新以降の変化に即応したことである。上述したように郷学閑谷学校はとくに明治、昭和に激変している。この変化の中であって、教育の面でも、伝統的な儒学・漢学を守るとともに、徐々に英学・理数科目なども導入し、時代の教育的要請に答えてきている^⑩。

第4点は、施設の有効利用である。国宝や重文の建造物は、そのままの姿で保存され使命を果し

ているが、その他のものが有効に活用されているのを見る。たとえば学寮は、一時、高等学校の校舎として利用され、のちに青少年教育センターとなり、いまは「閑谷学校資料館」として用いられている。この資料館では、江戸期以降の庶民教育に関する資料を整備し、閑谷学校の創設と沿革、孔子聖廟ならびに学制発布後の閑谷学校の歩みについて、文書資料、複製品、写真、ビデオなどにより丁寧に紹介、訪れる人びとの参考に供している。

第5点は、この閑谷の地のもつ静寂さが、都塵を離れた絶好の教育環境をつくり出し、よく伝統を保護しているとともに、新たに隣接地に近代的な「岡山県青少年教育センター閑谷学校[®]」が設置され、今日の青少年に有意義な教育施設を提供していることを指摘したい。ここでは講堂での学習、史跡の見学などにより、伝統の継承に努めるとともに、環境の整備、野外活動など奉仕活動によって研修し、健全な青少年の育成につとめている。この研修を通じて、先人の業績の顕彰など、教育的意義はユニークであり、かつ大きいものがある。

池田光政は、儒教による庶民教育を実践するにあたり、自然環境と調和した壮大な学校づくりを推進した。その理念とともに、330年を経た今日も、郷学「閑谷学校」は活きている。

(脚 注)

1 吉備真備

- ① 青木和夫『日本の歴史5，古代豪族』（小学館・1974年）208ページ。ただし、次の文献では持統天皇9年（695）となっている。

門脇禎二『吉備の古代史』（山陽放送・1988年）229ページ

荒木栄悦『吉備真備物語』（善本社，1978年）2ページ

- ② 青木和夫『日本の歴史5・古代豪族』（前掲）206ページ

- ③ 青木和夫・稲岡耕二・笹山晴生・白藤礼幸 校注『続日本書記2』（岩波書店・1990）22—23ページ

- ④ 村山光一・高橋正彦『国史概説1——古代・中世』（慶応通信・1991年再版）59ページによる吉備真備の献上した文物・書物。——唐礼130巻，大衍曆経1巻，大衍曆立成12巻，楽書要録10巻，測影鉄尺1枚，銅律管1部など。

青木和夫・稲岡耕二・笹山晴生・白藤礼幸 校注『続日本書記2』（前掲）228—229ページによる吉備真備の献上した文物。——鉄如方響写律管声（くろがねのほうきょうのごとくいちくわんのこえをうつすもの）12条。絃纏漆角弓（つるまきにうるしぬれるつのゆみ）1張。馬上飲水漆角弓（うまのうえにみずをのむうるしのつのゆみ）1張。露面漆四節角弓（おも

てをあらはしよしにうるしぬれるつのゆみ) 1張. 射甲箭(よろいをいるや) 20隻. 平射箭(ひらいのや) 10隻.

- ⑤ 谷口澄夫『岡山県の歴史』(山川出版社・1982年) 25ページ
- ⑥ 青木和夫『日本の歴史5, 古代豪族』(前掲) 223ページ
- ⑦ 門脇禎二『吉備の古代史』(前掲) 247ページ
- ⑧ 早田玄洞『史上の吉備(上)』(歴史図書社, 1975年) 167ページ
- ⑨ 宮田俊彦『吉備真備』(吉川弘文館, 新装第1刷, 1988年) 238ページ

2 閑谷学校

- ① 田中克佳『教育史』(慶應通信・1982年) 10ページによると郷学(庶民のための) 416, 郷学(小さな藩校) 152となっている.
- ② 筆者は平成6年(1994) 1月14日, 閑谷学校を訪問, つぎの方々から説明をうけた.
閑谷学校資料館長・若松佐々美氏
岡山県青少年教育センター閑谷学校・逸見英邦, 多胡修己新旧所長.
- ③ 特別史跡閑谷学校顕彰保存会『閑谷学校』(1991年7月10日)
今村新三『閑谷学校』(山陽新聞社1989年)
- ④ 『岡山県立和気閑谷高等学校・創立300年記念史』(1993年) 21ページ
- ⑤ 『岡山県青少年教育センター閑谷学校要覧』

(備考)

この二つのレポートは相互に関係はない, 筆者が在籍した慶應義塾大学文学部(通信教育課程)に提出したレポートを一部修正・加筆したものである.

吉備真備……「日本史概説Ⅰ(古代・中世)」1992年6月6日登録

閑谷学校……「教育史」1994年3月16日登録

以 上